

2023年創立記念日 社長メッセージ（グループ従業員向け）

皆さん、こんにちは。社長の茅本です。84回目の創立記念日にあたり、世界中のニッパツグループのみなさんに、私からのメッセージをお届けします。

日本はこの春から、多くの国は少し前から、ウィズ・コロナの社会となり、ようやく長いトンネルを抜けました。2020年春から3年以上の月日を数えました。新型コロナ感染拡大の状況下で、やむを得ず始めたビデオ配信ですが、コロナ前に戻った今年も、ビデオ配信で私からのメッセージをお伝えします。私自身が、私の言葉で、メッセージを直接、伝えたい。より多くの皆さんに私の思いを伝えたいとの考えからです。今回も、これからも、私が思うこと、感じることを、折に触れて発信していきます。

【グループの皆さん、ありがとう】

最初に皆さんに伝えたいことは、まず、心からの感謝です。世界経済は持ち直しつつあるものの、自動車業界は、長引く半導体不足、ロシアのウクライナ侵攻に起因する地政学リスクの増大、材料費、エネルギー費、物流費等の高騰もあって、特に昨年度は厳しい状況に置かれました。ニッパツも例外ではなく、昨年度は、思い描いた結果に少し届きませんでした。それでも、いい決算を迎えることができています。皆さんの頑張りのおかげです。ありがとう。

また、材料の安定調達、輸送力確保などの課題が多く起こり、上海のロックダウンもありました。海外、特に米国では労働力の流動性が非常に高まっていて、苦戦材料となっています。そんな中でも、世界中のニッパツグループの生産拠点、50ヶ所あまりありますが、全拠点で、最大限の注意と努力をして、お客様に商品を的確に供給し続けることができています。ニッパツグループに対する信頼度は間違いなく高まっており、このビデオを見ている世界中のニッパツグループの皆さんに、社長として心より感謝します。ありがとう。

【昨今の状況】

さて、8月10日に第1四半期の連結決算と業績見通しを発表しました。売上1,792億円、営業利益49億円、経常利益102億円となりました。通年予想は、期初発表の数値を変更せず、売上7,500億円、営業利益350億円、経常利益400億円としています。

今年度は23中計の最終年度です。売上は中計の数値をクリアする見込みですが、利益は若干届かない見込みです。昨年度の利益を牽引してくれたDDSと産機ICMは、今年度はここまでのところ厳しい状況にあります。後半からの巻き返しが待たれるところです。シートは一昨年赤字から昨年度はV字回復を果たし、今年度も順調に数字を伸ばしてくれそうな勢いです。ばね事業、すなわち、足回りのばね、精密ばねの両部門ともに、引き続き厳しい状況です。営業本部との連携によって、材料費、エネルギー費等、値上がり分の回収を含む、売価の改善を着実に進めるなど、まずは出血を止めることを最優先して取り組んでいます。また、高付加価値の商品開発も進めており、世界一のばねメーカーとして意地を見せようとしています。今年、6月と7月に米国とハンガリーのばね工場を訪問してきました。それぞれの工場で、苦しいながらも、自分たちのやるべきことをしっかり見据え、着実に改善策を進めている姿を目の当たりにして、少し安心しました。「ばねのニ

ツパツ」の復活も近いものと信じています。さらに、グループ各社も独自性を強く発揮しながら、素晴らしい結果を出してくれています。

先ほどお話しした通り、中計最終年度の決算は、利益が若干、中計目標に届かない見込みです。たとえ定量面の目標が未達であったとしても、3年前に各事業部門、グループ各社が中計で目指した定性面の目標は、しっかりと目的意識を持ち続けて、実現させてください。達成感を持つことが重要です。数値目標ともども、最後まであきらめず努力してください。

【「人を大切にする」一次期中計に向けてー】

さて、中計最終年度を迎えているということは、新たな中計の策定年度であるということです。企画部門を中心に中計策定はスタートしています。既にニッパツの経営戦略会議で、中計策定の方向性が報告され、次の中計の柱を「人を大切にする」としました。心にとどめてください。「人を大切にする」です。また、2030年を節目として、ニッパツグループのありたい姿を思い描き、中計はそこに至るロードマップと位置付けます。「人を大切にする」の「人」の第一は従業員の皆さんです。従業員の皆さんを大切にして、皆さんの頑張りにしっかり報いて、皆さんにとって、職場が働きやすい、働き甲斐がある、と思ってもらえるようにすれば、自ずと結果はついてくるはずですよ。正しい価値で材料を買って、良い商品を作って、良い評価を受けて、正しい価格で商品を売る。その源は、働きやすく、働き甲斐のある職場であり、「人が真ん中」です。

人を大切にすることは、ニッパツグループの社会的な価値を引き上げ、経済的な価値を引き上げることにつながり、そして、利益が従業員、株主他のステークホルダーに還元されます。好循環を生み出す起点を「人」において、定性、定量の両面で中計を策定していきます。

昨年度から今年度にかけて、ニッパツでは、地域限定総合職の新設、社内公募制の開始、基幹職制度の見直し、資格手当制度の拡充などを実施して、矢継ぎ早に人事制度の変革に取り組んでいます。また、取り組みが遅れているダイバーシティ、特に女性の活躍推進にも力を入れていきます。

もちろん、中計ですから、数値計画も重要です。しかし、数字はやるべきことをやればついてくる、ということで、中計の策定にあたっては、まずは次の3年間でやること、やらないこと、変えること、変えないことを考えることが第一歩です。本格的な中計策定は、これからです。皆さんもそれぞれの持ち場で、皆さんが2030年にありたい姿を思い浮かべて、自分のやりたいこと、やるべきことを考えてみてください。

【取引適正化 - 「正しい」ビジネスをー】

私は昨年度から、日本自動車部品工業会、短くすると部工会の総務委員長を務めています。その仕事の中で、最も時間を費やしているのは「取引適正化」です。製造業は、材料を仕入れ、製造し、販売します。昨年は、過去に例のないような材料価格、エネルギー価格などの高騰によって、仕入れコスト、生産コストが大幅に上昇して、商品の販売価格の引き上げが緊急課題となりました。

取引適正化とは、正しい値段で買って・作り、正しい値段で売ることです。部工会は部品メーカーの集まりですから、自動車メーカーに正しい値段で買ってもらいたい、と物申すのが本来の姿です。しかし、部工会の会員企業にも多くの仕入先があります。自分たちが正しい値段で買っているか、

仕入先としっかり向き合っているか、など、自ら「襟を正す」ことを、部工会会員企業にお願いしています。まずは自分たち部品メーカーがやるべきことをやって、自動車メーカーに部品メーカーの真剣さをわかってもらおうという取り組みです。

ニッパツの中でも、本社購買に旗を振ってもらっています。本社購買の皆さんだけでなく、各部門、各拠点、グループ各社の購買担当の皆さんにとって、少しでも安く仕入れ、コストを低く抑えることが大切であることは、これからも変わりありません。お願いしたいのは、正しく、安く仕入れることに努めていただきたいということです。悩ましいことがあったら、本社購買に相談してください。よろしくお願いいたします。

【更なる飛躍への道筋 - 2030年のありたい姿 -】

ここで、最近のうれしい話です。自動車のEV化が進む中で、二つのテーマについて精力的に開発、事業化を進めています。一つは、EV化のキーとなるモーターコアの事業。もう一つはEV車の電力のコントロール機構に欠かせない高放熱金属基板の事業です。この両テーマについて、最近、それぞれ100億円を超える大きな商談がまとまりました。ニッパツグループの2030年のありたい姿に大きく貢献してくれることでしょう。DDS、産機ICMも、今年は踊り場ですが、V字回復を果たしてくれたシート部門ともども、次期中計期間中には更なる飛躍が期待できます。厳しい状況のばね事業も、正しい価格で受注した商品が出そろえば、復活への道筋がしっかり見えるはずですよ。

最後に、改めて皆さんの努力と頑張りに心より感謝するとともに、来年のこの日には、より明るいメッセージをお伝えして、皆さんにさらに感謝できるようになることを期待しています。一緒に良いニッパツグループにしていきましょう。ご清聴、ありがとうございました。

2023年9月8日

代表取締役社長 茅本隆司